

京都府地域創生戦略の改定の方向性

1 第2期京都府地域創生戦略の体系

○主題や基本目標以下の個別施策については、京都府の最上位計画である京都府総合計画の分野別施策等を全面的に反映

○一方、地域創生戦略の基本目標は、まち・ひと・しごと創生法に基づき国の総合戦略と同じ構成であるため、第2期も総合計画の構成に倣わず、現行戦略の基本目標に国の第2期総合戦略の変更内容を反映（下表・網掛け部分）

第1期戦略	第2期戦略（案）
<p>【主題】</p> <p>●「京都流 地域創生」 ～文化創生から新たな生活を～</p> <p>※戦略独自に設定</p>	<p>【主題】</p> <p>●一人ひとりの夢と希望が全ての地域で実現できる京都府をめざして</p> <p>※総合計画の京都府の将来像を引用</p>
<p>【基本目標】</p> <p>●国総合戦略の4つの基本目標を勘案して、同趣旨の4つの基本目標を設定</p> <p>※まち・ひと・しごと創生法第9条に基づき、国の総合戦略を勘案</p>	<p>【基本目標】</p> <p>●国総合戦略の4つの基本目標を勘案して、第1期の4つの基本目標を修正</p> <p>※まち・ひと・しごと創生法第9条に基づき、国の総合戦略を勘案</p>
<p>【基本施策】</p> <p>●文化や大学の集積など京都が有する強みを「文化創生」と位置づけ、それに沿った基本施策を独自に設定</p> <p>※総合計画（明日の京都）の改定終了後の策定であったため、総合計画の施策に加えて、独自の施策を設定 例）文化：文化庁移転 大学：一まち一キャンパス</p>	<p>【基本施策】</p> <p>●新たな総合計画の分野別基本施策をもとに基本施策を設定</p> <p>※総合計画策定と地域創生戦略の改定が同じタイミングであったため、戦略独自の施策は設定しない。</p>
<p>【数値目標（KPI）】</p> <p>●国総合戦略を勘案し、それぞれの基本目標ごとに、数値目標を設定</p> <p>※出生や人口関係など、総合計画（明日の京都）にない独自の数値目標を設定</p>	<p>【数値目標（KPI）】</p> <p>●新たな総合計画の数値目標を引用しつつ、出生と人口関係については、独自に数値目標を設定</p>

2 第2期地域創生戦略の基本目標

○国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案していることがわかるよう、下記のとおり改定することを検討

基本目標	京都府地域創生戦略	まち・ひと・しごと創生総合戦略
基本目標1	京都の未来を拓く人を <u>つくり、誰もが活躍できる地域社会をつくる</u>	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、 <u>誰もが活躍できる地域社会をつくる</u> ※誰もが活躍できる地域社会をつくる
基本目標2	地域経済を活性化させ、仕事をつくる	地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする、 <u>これを支える人材を育て活かす</u> ※人材を育て活かす
基本目標3	京都への <u>新しい人の流れ</u> をつくる	地方への新しいひとの流れをつくる ※地方へのひと・資金の流れを強化する（「関係人口」の創出・拡大等） ※民間と協働する
基本目標4	<u>新たな時代の流れを力に</u> 持続可能で魅力と活力のある地域をつくる	時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する ※新しい時代の流れを力にする（Society5.0の実現に向けた技術の活用等） ※地域経営の視点で取り組む

※下線部分：第2期に変更される部分、ゴシック：第2期における新たな視点

<参考> まち・ひと・しごと創生基本方針 2019 における新たな視点

(1) 地方へのひと・資金の流れを強化する

- ◆将来的な地方移住にもつながる「関係人口」の創出・拡大。
- ◆企業や個人による地方への寄附・投資等を用いた地方への資金の流れの強化。

(2) 新しい時代の流れを力にする

- ◆Society5.0の実現に向けた技術の活用。
- ◆SDGsを原動力とした地方創生。
- ◆「地方から世界へ」。

(3) 人材を育て活かす

- ◆地方創生の基盤をなす人材に焦点を当て、掘り起こしや育成、活躍を支援。

(4) 民間と協働する

- ◆地方公共団体に加え、NPOなどの地域づくりを担う組織や企業と連携。

(5) 誰もが活躍できる地域社会をつくる

- ◆女性、高齢者、障害者、外国人など誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現。

(6) 地域経営の視点で取り組む

- ◆地域の経済社会構造全体を俯瞰して地域をマネジメント。

3 地域創生戦略に反映する総合計画の分野別基本施策

戦略基本目標	総合計画（分野別基本施策）
基本目標 1 京都の未来を拓く人をつくり、誰もが活躍できる地域社会をつくる	①希望あふれる子育て
	②夢を実現する教育
	③安心できる健康・医療と人生100年時代
	④安心できる介護・福祉の実現
	⑤人権が尊重される社会
	⑥男性も女性も誰もが活躍できる社会
	⑦障害者が暮らしやすい社会
	⑧留学生・外国人が生き生きと暮らせる社会
	⑩誰もが親しみ夢が広がるスポーツ
	⑰犯罪や事故のない暮らし
基本目標 2 地域経済を活性化させ、仕事をつくる	⑫産業の創出・成長・発展と継承
	⑭雇用の安定・確保と人材育成
	⑮農林水産業の成長産業化
基本目標 3 京都への新しい人の流れをつくる	⑨コミュニティが大切にされる社会
	⑩誰もが親しみ夢が広がるスポーツ
	⑪文化力による未来づくり
	⑬魅力ある観光
基本目標 4 新たな時代の流れを力に持続可能で魅力と活力のある地域をつくる	⑯しなやかで災害に強い地域
	⑱脱炭素社会へのチャレンジ
	⑲成長・交流・情報・暮らしの基盤づくり
	⑳もうひとつの京都の推進と地域連携

4 基本目標の成果指標の設定

○基本目標の成果指標については、総合計画の数値目標から引用しつつ、必要に応じて地域創生戦略独自の数値目標の設定を検討

基本目標	現 行	第 2 期（たたき台）
基本目標 1 京都の未来を拓く 人をつくり、誰もが 活躍できる地域社 会をつくる	出生数 ○22,000 人（H30 年）	※戦略独自の出生関連目標を検討
	自分の才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思う人の割合 ○過去最高値（H31 年度）	住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合 ○82.6% → 90.0%（令和 5 年度）
基本目標 2 地域経済を活性化 させ、仕事をつくる	正規雇用創出数 ○35,000 人（H27～31 年度）	従業員 1 人当たりの付加価値額（製造業） ○14,551 千円 → 19,000 千円（令和 5 年）
	仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合 ○過去最高値（H31 年度）	不本意非正規雇用者の割合 ○11.7% → 10.7%（令和 4 年）
基本目標 3 京都への新しい人 の流れをつくる	人口の社会増 （転入超過）（H31 年度）	※戦略独自の人口関連（関係人口含む）目標を検討
	住んでいる地域に、にぎわいや活気があると思う人の割合 ○過去最高値（H31 年度）	京都府内の国際会議開催件数 ○367 件 → 450 件（令和 5 年）
基本目標 4 新たな時代の流れ を力に持続可能で 魅力と活力のある 地域をつくる	広域連携プロジェクト数 ○7 プロジェクト（H31 年度）	海の京都、森の京都、お茶の京都、竹の里・乙訓エリアの観光入込客数 ○海：969 万人→1,380 万人（令和 5 年） ○森：939 万人→1,340 万人（令和 5 年） ○茶：1,254 万人→1,760 万人（令和 5 年） ○竹：220 万人→295 万人（令和 5 年）
	住んでいる地域について、個性や魅力を感じている人の割合 ○過去最高値（H31 年度）	海の京都、森の京都、お茶の京都、竹の里・乙訓エリアの観光消費額 ○海：247 億円→437 億円（令和 5 年） ○森：169 億円→299 億円（令和 5 年） ○茶：226 億円→401 億円（令和 5 年） ○竹：8.4 億円→14 億円（令和 5 年）

○基本目標以下の各施策の K P I についても、総合計画の数値目標から引用

5 その他

○「人口ビジョン」は、府の長期的な人口の見通しをとりまとめたものであり、現状の評価にとどめ、改定しない方向で検討（詳細は別紙のとおり）